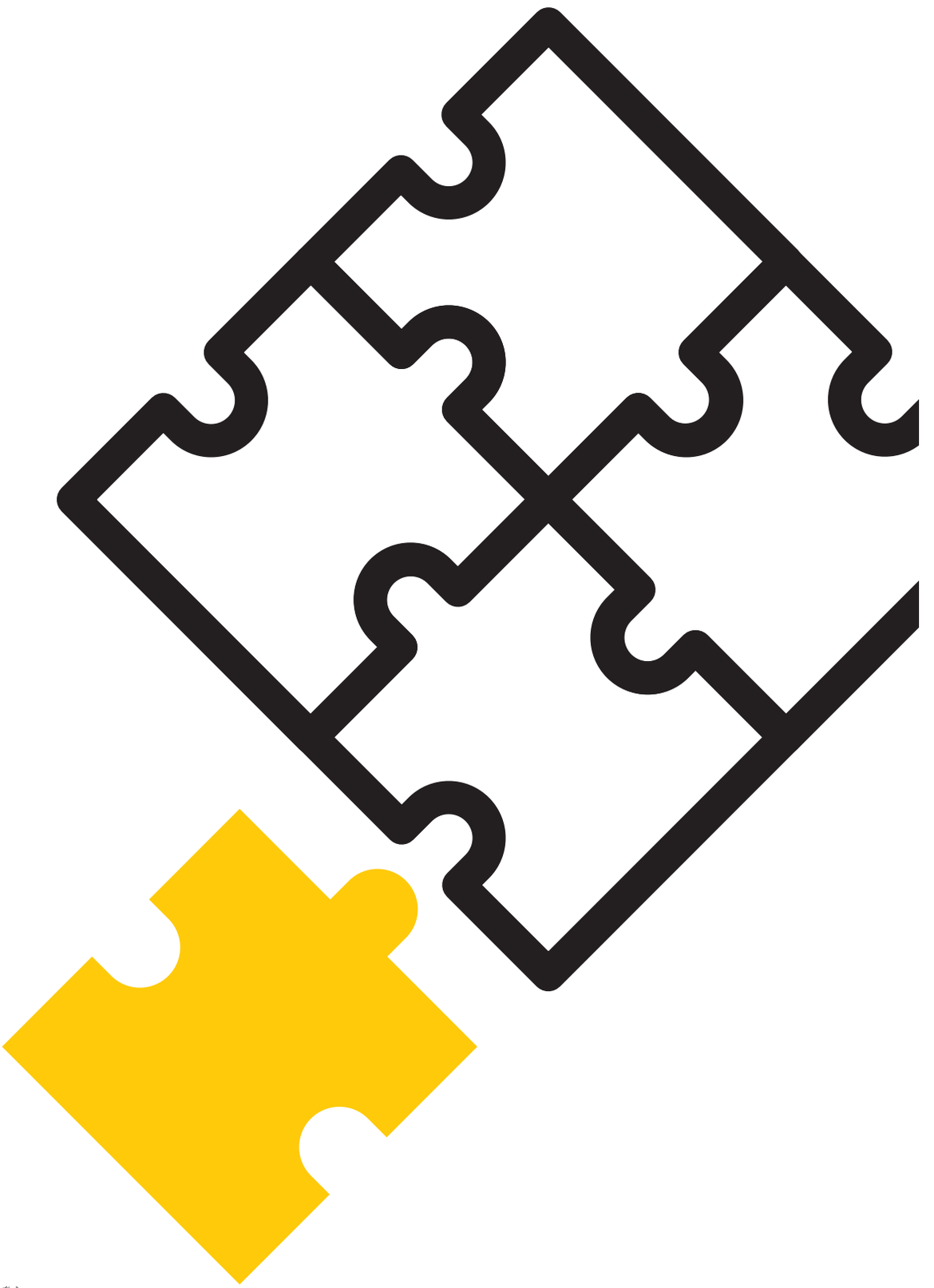
Keio University



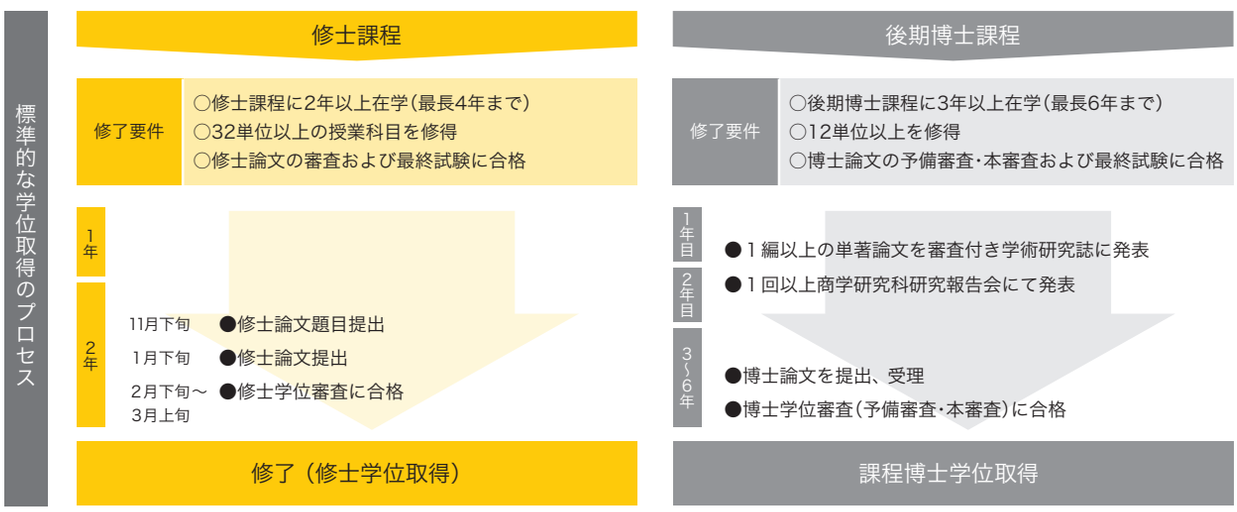
「実学の精神」を受け継ぐ、次世代のリーダーを育む
慶應義塾大学

大学院
商学研究科

About Us

大学院商学研究科とは

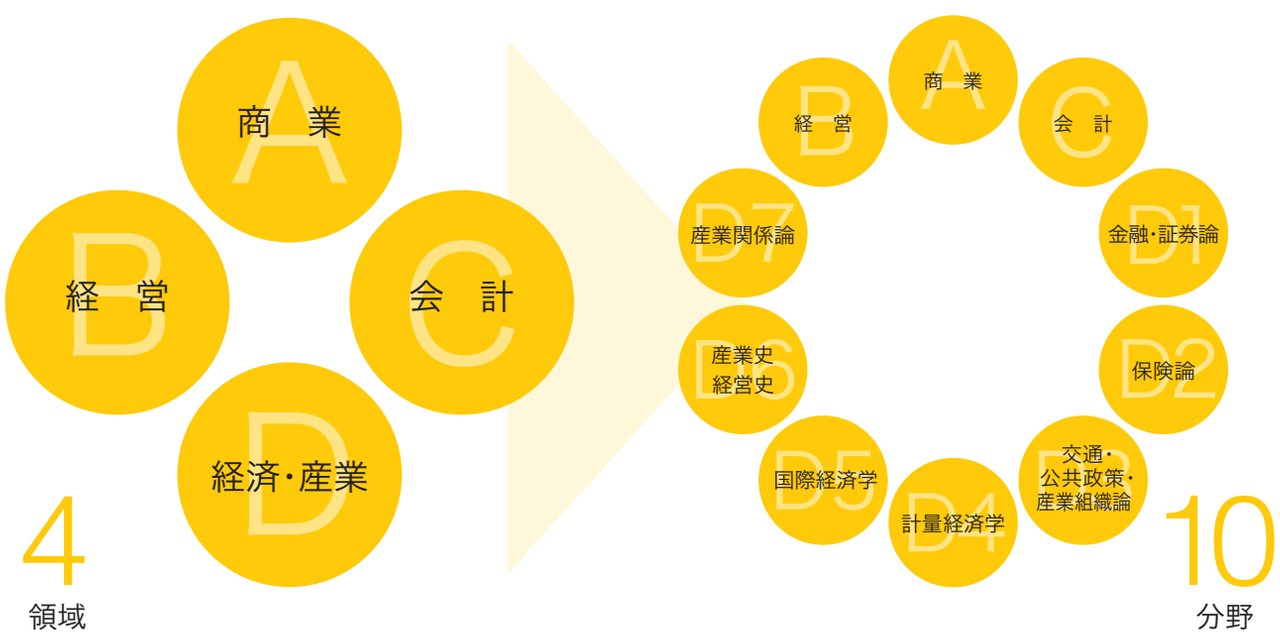
商学研究科における研究教育に対する基本理念は、義塾創設者の「実学の精神」を継承しつつ、理論と実証を通じて現代のグローバルな産業社会を理解し、その変革の方向を洞察することにあります。商学研究科は10分野から構成されるハイブリッドな研究科です。いずれの分野でもトップレベルをめざす仲間との切磋琢磨の中で、研究テーマについて掘り下げ、追及していくために、隣接分野の仲間をもち知識を得ることはより深みのある研究につながります。これが多様な専門から構成される商学研究科の強みの一つです。修士課程の標準修業年限は2年、後期博士課程は3年で、それぞれ修士(商学)、博士(商学)の学位取得を目指します。慶應義塾大学からの進学者は学士課程と併せて合計5年で修士号を取得できる選択肢も用意されています。



商学研究科の専門領域

Specialized areas of the Graduate School of Commerce

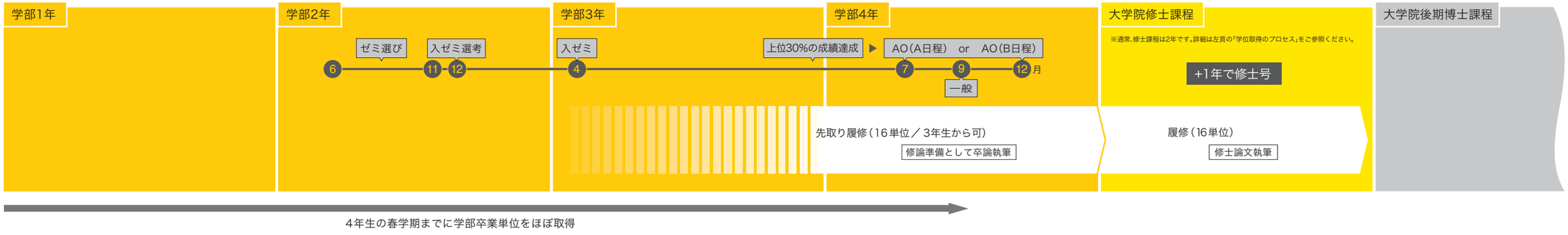
商学研究科の専門領域は、商業学、経営学、会計学に加え、経済・産業分野に含まれる金融・証券論、保険論、交通・公共政策・産業組織論、計量経済学、国際経済学、産業史・経営史、産業関係論という広範囲にわたります。大学院として高度な専門性を追求しながら、相互に関連する諸領域を学ぶことで、複雑で変化の速い産業社会についての考察を深めていくことが可能となります。



商学部・商学研究科修士課程 5 年修了モデル（2024年度現在の制度）

5-year master's course model for Faculty of Business and Commerce / Graduate School of Business and Commerce

慶應義塾大学の指定学部の在籍者は、修士課程設置科目の先取り履修、修士課程の早期修了制度を組み合わせることにより、5年間で学士号、修士号の両方を取得する道が開かれています。
（先取り履修は各年度における指定科目のみ16単位以内、修士課程に2年在籍予定の方も履修可能です。また、学部3年終了時点で所属学部の上位30%以内の成績であれば、筆記試験が免除されるAO入試制度を利用可能です。）



留学

Study abroad

CEMS との Double Masters Degree Programme

CEMS – The Global Alliance in Management Educationは、ヨーロッパを中心とする世界トップレベルのビジネススクールと、それを支える多国籍企業の国際的ネットワークです。CEMSでは、CEMS MIM（CEMS Master's in International Management）というヨーロッパ型の経営理念に基づく国際経営学修士コースを設けています。このプログラムに参加することにより、加盟校の学生は母校からの修士号とCEMS MIMの両方を取得できます。CEMSは、多言語を用いて、多文化が相互に関連しあう国際ビジネスの世界において必要不可欠な教育を提供することを目的としています。この目的を達成するための手段として、CEMS MIMのプログラムでは、高い倫理観を備え、グローバルに活躍するビジネスパーソンに必要な高い能力と、尊敬や共感をもって文化的多様性への理解を有する等の国際人としての良識を養うことを追及しています。FINANCIAL TIMESの修士号ランキングでもCEMSに世界的に高い評価を与えています。各国からCEMSに参加できる大学は厳しい審査基準を通過した1校のみで、慶應義塾大学が日本の正会員校です。

商学研究科の学生は、所定の要件を修めることで、慶應義塾大学商学研究科からの修士号とあわせて国際経営学修士の学位が取得できます。CEMSダブルディグリー・プログラムへの参加により、慶應義塾大学において商学の知識を得るだけでなく、外国の大学において国際経営に関する知識と経験を得ることができます。加えて、プログラムの修了者は、国際的な視野と経験を兼ね備えていることを内外へ示すことができます。大学院修了後のキャリアの選択肢が、大きく広がることが期待されます。

商学研究科の留学制度（交換協定）

商学研究科は下記 2 大学と独自の交換協定を結んでおり、商学研究科の学生は優先的に採用されます。
また、これらの大学からも毎年学生を受け入れています。

●University of British Columbia, Sauder School of Business（Vancouver, British Columbia, Canada）
●Copenhagen Business School, Department of International Economics and Management（Copenhagen, Denmark）

協定校はいずれも専門分野が商学研究科とほぼ同じビジネススクールですので、商学研究科の学生は各国の学生との交流を通じて専門分野におけるより深い理解が図れます。なお交換留学生として派遣された場合、協定校では交換学生もしくは研究生として、派遣先の大学院正規生と同様に授業、セミナー、プロジェクトに参加できるとともに、取得単位は帰国後に認定されます。多くの学生の応募を期待しています。

商学研究科 留学先国別一覧（2009年4月入学者から2022年4月入学者まで）

シンガポール	シンガポール国立大学	イギリス	ウォーリック大学、 ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス
タイ	アジア工科大学、チュラロンコーン大学	イタリア	ボッコーニ大学
大韓民国	延世大学	オランダ	エラスムス大学
アメリカ合衆国	アメリカン大学、シカゴ大学、ニューヨーク州立大学 バッファロー校、ノースウェスタン大学 ブランダイス大学、ペンシルベニア州立大学	スイス	ザンクトガレン大学
		スウェーデン	ストックホルム商科大学
		デンマーク	コペンハーゲン・ビジネス・スクール
カナダ	ウエスタン大学、コンコルディア大学 ブリティッシュ・コロンビア大学	フランス	トゥールーズ第一キャピトル大学、 HEC 経営大学院

大学院生向け奨学制度（2023年度実績）

Scholarship system

成績・人物ともに優秀な学生で、研究の意欲を持ちながらも、経済的な理由により修学が困難な学生を対象に、慶應義塾大学大学院では、次のような奨学制度を設けています。詳しくは、下記本学ウェブサイトをご覧ください。

日本国籍等の学生対象　https://www.students.keio.ac.jp/com/scholarships/apply/form.html
外国人留学生対象　https://www.ic.keio.ac.jp/intl_student/scholarship/intl_student.html

	奨学金名	種別	金　額	対象者※1	期間
学内	慶應義塾大学大学院奨学金	給付	年額 500,000 円または 600,000 円 （金額は研究科で異なる）	日本国籍等の学生 外国人留学生	1 年
	慶應義塾大学修学支援奨学金	給付	学費の範囲内（平均支給額：年額約 300,000 円）	日本国籍等の学生 外国人留学生	1 年
	研究のすゝめ奨学金 （申請時期・条件等は研究科で異なる）	給付	年額 300,000 円・500,000 円・700,000 円 （金額は研究科で異なる）	研究科で異なる	※2
	小泉信三記念大学院特別奨学金	給付	月額 30,000 円	日本国籍等の学生 外国人留学生	1 年
	未来先導国際奨学金（入学前申請）	給付	学費全額、生活費月額 200,000 円 渡航費補助を含む留学準備一時金 150,000 円	外国人留学生	1 年
	各種指定寄付奨学金 ※詳細は上記ウェブサイト参照	給付	年額 100,000 円～学費の範囲内	日本国籍等の学生 外国人留学生	1 年
学外	日本学生支援機構奨学金第一種奨学金（貸与無利子）	貸与	修士課程 月額 50,000 円または 88,000 円 後期博士課程 月額 80,000 円または 122,000 円	日本国籍等の学生	標準修業年限
	日本学生支援機構奨学金第二種奨学金（貸与有利子）	貸与	月額 50,000 円・80,000 円・100,000 円・130,000 円・ 150,000 円（金額は本人が選択）	日本国籍等の学生	標準修業年限
	文部科学省外国人留学生学習奨励費	給付	月額 48,000 円	外国人留学生	1年以内
	スーパーグローバル大学創成支援事業国費 外国人留学生	給付	学費免除、月額 144,000 円～ 145,000 円	外国人留学生	1年以内
	民間団体・地方公共団体の各種奨学金 ※詳細は上記ウェブサイト参照	給付 貸与	奨学団体の規定による	日本国籍等の学生 外国人留学生	奨学団体による

※1 対象者の「外国人留学生」とは、在留資格「留学」を有する者（取得予定を含む）。また、「日本国籍等の学生」には、外国籍の場合、永住者・定住者等の在留資格を有する者を含む。
※2 標準修業年限（博士課程・専門職学位課程は3年）を上限とする。

日本学生支援機構「特に優れた業績による奨学金返還免除」修士課程内定制度　https://www.students.keio.ac.jp/com/scholarships/mmenjo.html

大学院（修士課程・専門職学位課程・博士課程）において、第一種奨学金の貸与を受けた学生で貸与期間中に特に優れた業績を挙げたと認められる場合には、貸与期間終了時においてその奨学金の全部又は一部（半額）の返還が免除される制度があります。（金額等の詳細は、在籍キャンパスのウェブサイトで確認して下さい。）

商学研究科修士課程修了者の主な就職先（2019年度～2021年度修了者）

アクセンチュア株式会社、有限責任あずさ監査法人、イオンモール株式会社、株式会社インテージ、金融庁、厚生労働省、独立行政法人国際協力機構デロイトトーマツ税理士法人、東京電力ホールディングス株式会社、有限責任監査法人トーマツ、日本アイ・ビー・エム株式会社、日本アイ・ビー・エム・サービス株式会社、日本経営システム株式会社、日本タタ・コンサルタンシー・サービシズ株式会社、株式会社野村総合研究所、株式会社日立製作所、富士通株式会社、株式会社船井総合研究所、株式会社三菱ＵＦＪ銀行

研究テーマを広く深く掘り下げる

商学研究科 商学専攻 後期博士課程　宮本 純至



私は現在、商学研究科の後期博士課程で流通論と消費者行動論を専攻しています。学部でのゼミ活動を通じて興味が湧いたテーマをより深く研究したくなったのが、商学研究科への進学理由です。商学研究科には、講義科目と演習科目があります。講義科目では、国内外の文献をもとに議論が行われるため、授業前にきちんと予習し、自分の考えをまとめて臨む必要があります。大変ですが、これを繰り返したことで専門知識が増え、普遍的な思考力も高まったと感じています。演習科目は、研究を深めるための科目です。私の場合、学会発表や論文執筆について、その内容のみならず、伝える力についても指導していただいています。演習科目では、海外副指導教授制度を利用し、海外の著名な研究者からオンラインを通じて指導を受けています。もちろん英語です。最初は大変でしたが、徐々に慣れてきました。この副指導教授のお陰で、国際学会での発表に加え、国際学術雑誌への論文掲載が出来ました。ゼミで関心を持ったテーマが、ここまで深く広がったことに驚いています。結果として商学研究科への進学という選択は大正解でした。

世界観が広がった国際的な経験

商学研究科 商学専攻 後期博士課程　宋 娉婷



私は修士課程在籍時にCEMS MIM プログラムに参加し、シンガポールとスウェーデンに半年ずつ留学しました。それまでは東アジアの文化しか経験したことがなかったため、様々な人種の人々が共存しているシンガポールや、社会福祉が充実しているスウェーデンでの経験を通じて、世界観が一気に広がりました。CEMS MIMプログラムの一環として、GLOBAL CITIZENSHIPの授業やイベントにも積極的に参加し、国際的な経験を積むことができました。また、この留学がきっかけとなり、カンボジアに2か月滞在してNGOの仕事に関わることになりました。シンガポールやスウェーデンとは対照的なカンボジアの人々の貧しさを目の当たりにして、地球市民として自分の力で少しでも世界中の人々の幸せに貢献したいと考えるようになりました。現在は博士課程において、主に国際経済学と開発経済学を研究しています。中国出身の私は、中国が国際貿易に恵まれている時代に育ったため、後発の開発途上国も国際貿易を通じて貧困から抜け出せると信じています。自分の研究が、その発展の過程に少しでも貢献できるよう、楽しんで研究を行なっています。

Voice

大学院生・修了生の体験談

Student Testimonials

仕事に活きる力を培う場所

経営コンサルティング　江本雅人



私は、大学院で管理会計・原価計算を専攻しておりました。大学院での過ごし方は、専攻分野に関連する授業を通して基礎となる素養を培いながら、自身の研究テーマに取組み、修士論文の執筆を進めていくことになります。私は、原価計算の分野で研究を行い、実際の企業の中で原価情報がどのように活用されるか、フィールドワークを通して検証・考察を行いました。研究を進める上では、教授や先輩方に全面的にサポートしていただきました。現在は経営コンサルタントとして、様々な企業の課題解決に取り組んでいますが、大学院での学びは今の仕事でも大いに活きていると感じます。授業で学んだ企業経営に関する知識が直接的に活きることはもちろんですが、研究や論文執筆を通して培った力は、仕事のあらゆる場面で役立ちます。例えば、目的に則して論を展開する力、複雑な事象を分かりやすく整理する力、簡潔で読みやすい文章を書く力。こうした力のベースは大学院で培われたと感じています。大学で学ぶ中で、関心のある分野・テーマと出会えたら、それを探求する場として、大学院進学を一つの選択肢として検討することをお勧めします。

ディスカッションから新たな視点を得る

慶應義塾大学 商学部 助教　中村知誠



私が本格的に大学院進学を決意したのは、学部2年生の時でした。専門科目の講義で基礎理論を学び始めたことで、それらがどのように政策やビジネスの場で応用されるのか、という点を深く研究したいという思いが芽生えたためです。3・4年生では、卒業論文に取り組むと同時に、試験準備として、専門分野の基礎的文献を精読するなどの勉強を進めました。商業、経営、会計、経済・産業分野をカバーする商学研究科では多様な科目が開講されていることから、進学後は、幅広く授業を履修しました。自分の所属する分野に加えて、隣接分野の授業に参加したことで、研究に対する新たな視点やヒントを数多く得ることが出来たと考えています。大学院では、大教室での講義よりも、代表的な文献や最新の文献を輪読・精読し、議論するという形式の授業が多くなります。先生方や他の履修者とのディスカッションによって、研究に必要な知識を体系的に整理できるほか、学習した理論をどのように研究や実務に活かすか、などについても深く考えることが可能です。これこそ、大学院での学びの醍醐味ではないでしょうか。

※2023年現在

Keio University

◆入学試験要項

一般入試 修士課程

https://www.keio.ac.jp/ja/grad-admissions/masters/gsbc/

AO選抜入試 修士課程

https://www.keio.ac.jp/ja/grad-admissions/masters/ao-gsbc/

一般入試 後期博士課程

https://www.keio.ac.jp/ja/grad-admissions/doctoral/gsbc/

◆過去問題閲覧サイト

修士課程

https://www.keio.ac.jp/ja/grad-admissions/masters/past-exams/

後期博士課程

https://www.keio.ac.jp/ja/grad-admissions/doctoral/past-exams/

慶應義塾大学商学部および指定する学部の在学生は、学部の成績（GPA）により筆記試験を免除するAO選抜入試制度を利用可能です。

お問合せ

慶應義塾大学大学院商学研究科　〒108-8345 東京都港区三田2-15-45　HP／fbc.keio.ac.jp/graduate

【入学試験について】三田学生部大学院入試担当　Tel／03-5427-1067 Mail／grad_admissions@info.keio.ac.jp

【商学研究科全般について】学生部商学研究科担当（南校舎1階）　Tel／03-5427-1558 Mail／mita-gakuji-sho@adst.keio.ac.jp

2024.4.1